

# 霧島丸新聞

発行  
函館水産高校3年  
永嶺 終吾

鹿兒島商船  
学校練習船

## 霧島丸遭難から96年

全日本船舶職員協会機関誌「全船協」に、昭和2年3月9日、千葉県犬吠埼沖を荒天航行中、不運にも遭難した鹿兒島商船学校練習船「霧島丸」慰霊祭の記事が載っていた。この遭難をきっかけとして現在の「日本丸」「海王丸」が建造されたこと、慰霊碑を守り伝える人々のことを知った。



霧島丸遭難事故  
昭和2年3月9日 千葉県犬吠埼沖で天候不意にこの遭難  
実習生・乗組員合わせて53名が犠牲となった

### 当時の船員教育制度と練習船

日本全国に、北は函館から南は鹿兒島まで、商船学校が全部で十校あった。函館には函館商船学校があった。この他、国立の高等商船学校(現東京海洋大学越中島キャンパス)があった。

### 霧島丸の存在

このような環境の中にあつて、鹿兒島商船学校は霧島丸という四本マストパーカテン型の立派な練習船を所有していた。その霧島丸が遭難したのだから、関係者の嘆きはとても大きかった

## 日本丸・海王丸進水

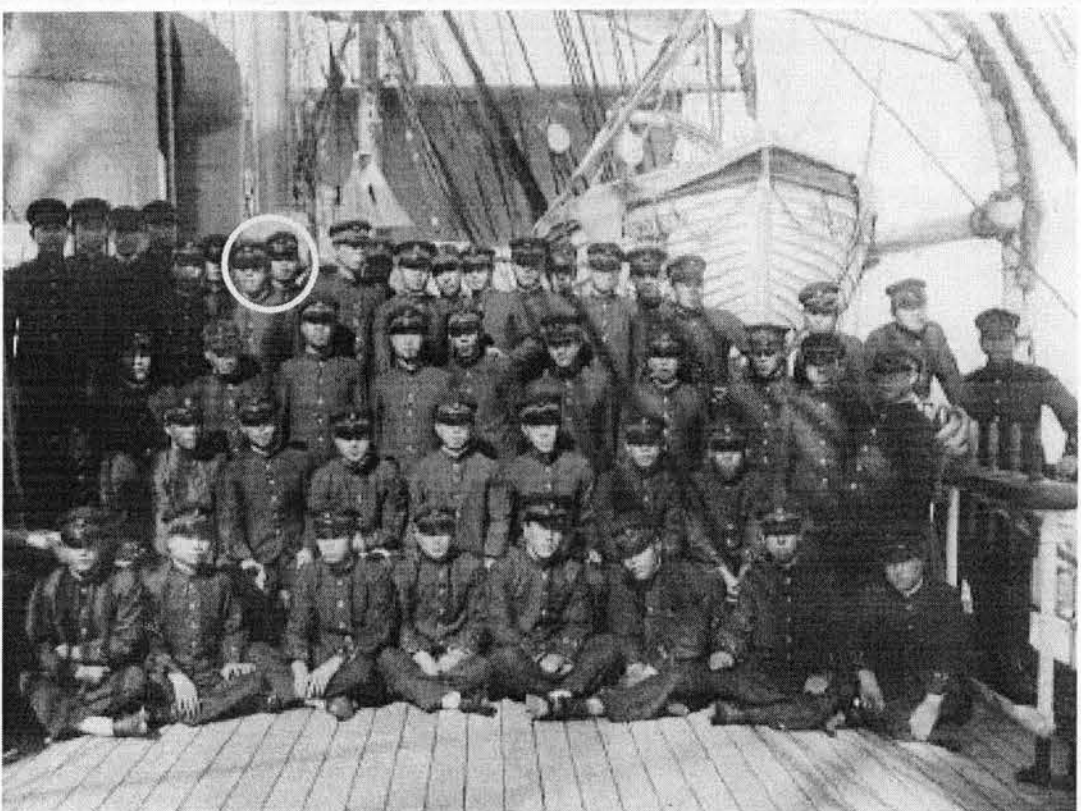
昭和5年、請願活動が叶って、地方商船学校待望の四本マストパーカテン型練習帆船「日本丸」と「海王丸」が竣工した。「海の貴婦人」と慕われる日本が世界に誇る練習帆船の誕生だ。



在りし日の練習帆船(左から日本丸・海王丸・大成丸)

この航海には、全国十一の地方商船学校の練習生が乗船して、南太平洋をグルッと一周する航海だった。函館商船学校からは3名が乗船し、アルバムには笑顔で撮った三人の写真が残っている。日本丸・海王丸はその後、大勢の船乗りの卵を育て、日本丸は、アメリカ開国200年記念帆船パレードに日本代表として参加した。

現在は、両船共に二代目の時代に入り、初代の日本丸は横浜みなとみらい地区で、同じく海王丸は富山港で、帆船の魅力を市民に伝えている。

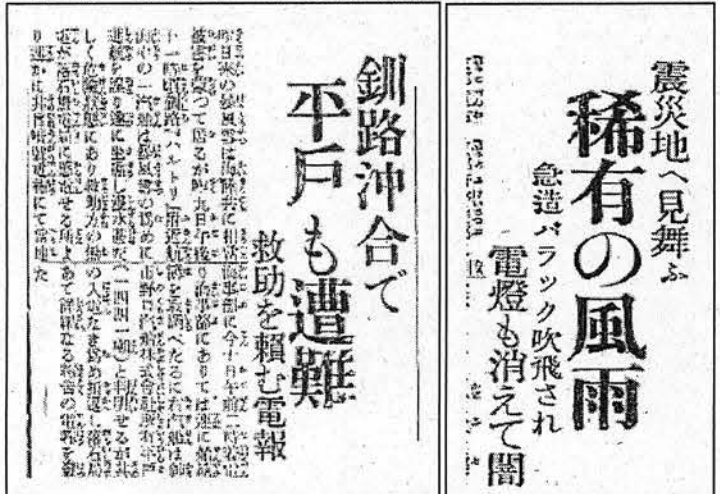


海王丸第1次練習航海の実習生(○印函館商船学校生)

## 霧島丸遭難を函館の新聞はどう伝えたか

函館商船学校が在る函館が霧島丸遭難をどのように受け止めたか。他人事ではいられなかったと思う。そこで、新聞は遭難をどう伝えたか、函館中央図書館所蔵の函館日々新聞で調べてみた。

●第1報。昭和2年3月10日



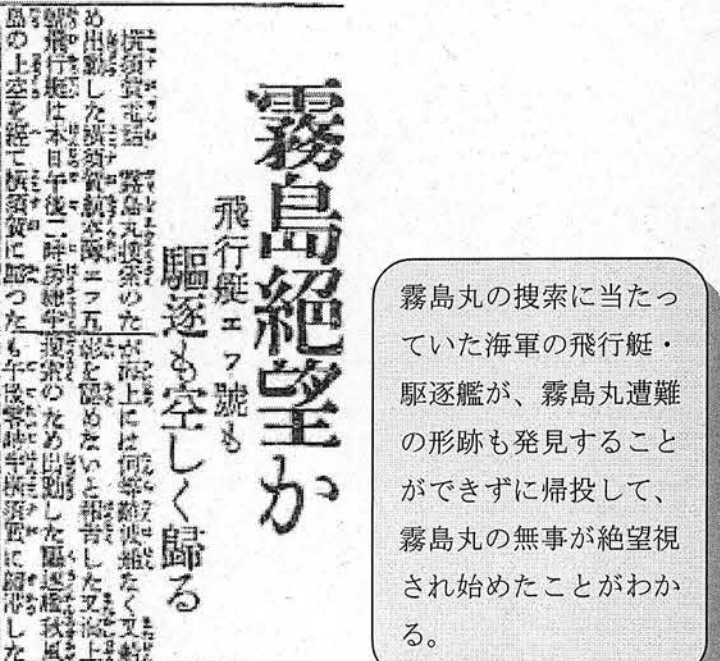
霧島丸遭難の前日から、日本列島は海・陸共に強風が吹き荒れ、鉚路沖では平戸丸が遭難していた。

●第2報。昭和2年3月11日



霧島丸の搜索に、海軍の飛行艇・駆逐艦が犬吠岬～九十九里沖に出動したことがわかる。

●第3報。昭和2年3月13日



霧島丸の搜索に当たっていた海軍の飛行艇・駆逐艦が、霧島丸遭難の形跡も見ることができずに帰投して、霧島丸の無事が絶望視され始めたことがわかる。

# 海難事故から何を学ぶ

2年前、知床で観光船「KAZU-I」の沈没事故があった。古くは昭和29年に函館湾であった青函連絡船「洞爺丸」等の座礁・転覆事故がある。海難事故から何を学ぶか。この学びこそ犠牲者への何よりの供養のひとつだと思ふ。

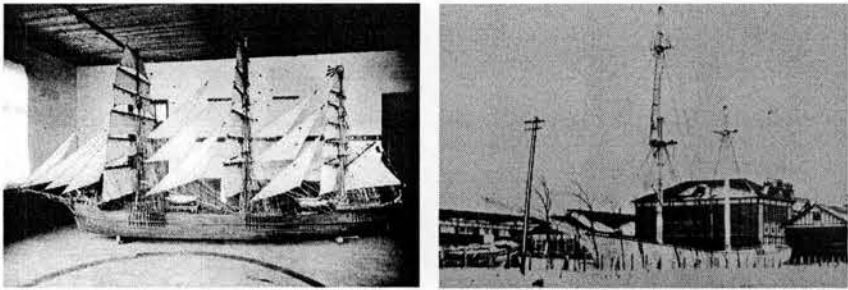
## 「KAZU-I」からの学び

船舶検査のあり方とか、責任の所在などが報道の中心になっていて、事故から学ぶ「学び」に関する報道は少ないように思う。

先日、北海道新聞に、「漂流者にGPS発信器を装着することで、スピーディーに位置を割り出す実証実験に成功した」という記事が出た。KAZU-Iの事故は、知床半島が目と鼻の先で起きた事故だったが、救助が間に合わなかった。今回新聞発表された技術は、KAZU-Iの悲劇を繰り返さない重要な技術だと思ふ。

## 函館商船学校の帆走教育施設・教材を偲ぶ

**陸上帆船** 右下の図は、函館商船学校が閉校になる昭和10年に撮った商船学校校舎と陸上帆船の写真である。函館商船学校の生徒たちは、実際に帆船実習をする前に、本物と同じスケールで作られたこの陸上帆船で帆の操り方や帆桁の風向きに対するトリムを覚えたのだと思う。陸上帆船にも名前がついていたと思われるが、この陸上帆船の名前に関する資料は見つかっていない。



↑ 北光丸

↑ 陸上帆船

**巨大模型帆船「北光丸」** 現在、横浜港大さん橋に展示されている「北光丸」は全長6m、高さ4.7mもある巨大模型帆船である。もともと函館商船学校が函館ドックに依頼して製作してもらったもので、教室に居ながら帆の扱いや索具の扱いを学べる模型教材だった。

**今こそ水産高校の出番?**  
関係者の高齢化で慰霊祭が打ち切りになる今こそ、我々水産高校がお手伝いできるのではないかと。慰霊祭を勝手にすることはできないが、慰霊碑・慰霊碑周辺の掃除や、慰霊碑に記された海難を市民に伝えるポスター展などの開催ならできるのではないだろうか。



少年海員之碑

## 海難事故を後の世に伝える

### 関係者の高齢化

洞爺丸台風の際の慰霊碑や昭和二十一年七月十五・十六日の函館空襲で殉職した青函連絡船乗組員の慰霊碑や、同じく空襲の日に青函連絡船で実習していた少年海員之碑、函館

**「洞爺丸」からの学び**  
洞爺丸横転原因のひとつは、船尾貨車搬入口からの海水浸入だといわれ、その後の青函連絡船は搬入口に扉を装備して、「北の吠える四十



在りし日の津軽丸  
(※ Wikipedia から引用)

度線」と恐れられる津軽海峡で、ほとんど運航を休むことなく、定時運航した青函連絡船は世界有数の優秀船に生まれ変わった。

## 霧島丸顕彰・慰霊活動

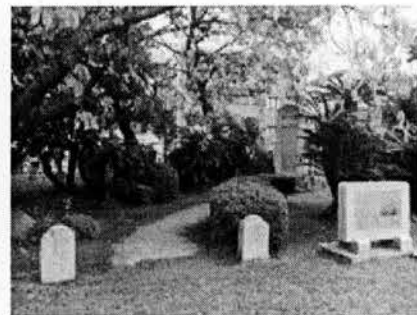
1927年の「霧島丸」遭難から今年(2023年)は、96年目の年であり、海事関係者の間でも遭難の歴史が忘れ去られようとしている。私も、この新聞を手がけるまで、全く知らなかった。そして、函館にも訪れる「日本丸」「海王丸」が、霧島丸の遭難と深く関係していることなど全く知らなかった。

現在、霧島丸の慰霊はどうなっているのだろうか。これに関する資料として、「全船協」(会報152号 2023年5月 春季号)の記事、「霧島丸遭難慰霊碑の美化清掃活動に参加して」(終身会員 七呂光雄氏記)を読んだ。

霧島丸遭難慰霊碑は、鹿児島商船学校が昭和21年に廃校し、廃校後、その校舎・敷地・施設・設備等を引き継いで開校したという関係で、鹿児島大学水産学部構内に在り、肝心の慰霊祭は、海洋会鹿児島支部が主体となって、鹿児島大学水産学部・同学部同窓会「魚水会」・鹿児島商船学校同窓会・大島商船高専同窓会「小松会」・全船協等の関係者らで、慰霊碑周りの清掃と慰霊祭を行っていることがわかった。

海事関係者らにとって、日本丸・海王丸誕生のきっかけとなった霧島丸は、特別な思いを起こさせる船なのだろう。そういう思いが結集して霧島丸の慰霊祭・清掃活動が行われていることを感じる。

そして、この活動に子どもたちが参加していることに驚く。何といても、若い人たちに活動に参加してもらうことが霧島丸の海難事故を長く後世に伝える最大の力になること間違いなしである。函館の各種海難事故慰霊祭存続にも、霧島丸活動の中に大きなヒントがあると思ふ。



鹿児島大学水産学部構内に在る慰霊碑



「霧島丸」慰霊碑清掃活動を終えて

(※ インターネットから引用)

## 編集後記



私は水産高校で作り育てる漁業を学んでいる。乗る船は小型船で、霧島丸のように大きな船ではない。同じクラスの海技士養成コースに学

ぶ生徒は、二年生の時、北海道の漁業実習船「北鳳丸」に乗船して、ハワイ方面に約二ヶ月間のマグロ延縄実習を経験した。航海中、見たこともないような大きなうねりが船首にぶつかり、巨大な波しぶきの壁がブリッジの窓に襲いかかり、目をつぶったことを話してくれた。



今回、霧島丸の遭難事故を「霧島丸新聞」としてまとめてみて、卒業後、小樽海上技術短大に進学し、将来は船員になろうとしている自分にとって大きな勉強になった。遭難事故の内容にはとてもつらいものを感じたが、その遭難を乗り越えて、事故から学び、学びを形にしていこうという遺された者の使命感のすごさを感じた。



「東北大震災を忘れない!」という言葉はよく耳にするが、「何々丸の遭難事故を忘れない!」という言葉はあまり耳にしたことがない。高齢化の波が遭難で犠牲になった人々の遺族や関係者を襲い、慰霊祭存続の問題も知った。今こそ海に学ぶ私達水産高校生の出番ではないかと思ふようになった。最後になりましたが、メールを通じて色々と助言をくださった七呂光雄様にお礼致します。(終吾)

聞き書き「ダンチヨネ節」(断腸ね節)  
♪ 遭いはせなんだかヨ  
館山沖でヨ二本マストのよ  
●●丸 そかヨ  
と商船系・水産系学校で  
歌い継がれているこの歌は  
東京高等商船学校練習船  
「月島丸」の遭難殉難歌とも、  
霧島丸の遭難を歌ったものとも  
いわれている。そして、今でも  
練習船の出航式で披露される  
演舞は、沈んでゆく船内で  
懸命にアカ汲みする生徒の姿だという。

